

活動は、子ども達の真剣なまなざしと輝く笑顔があふれています



地域と子どもが交わる・広がる

# 地域 子ども教室 推進事業

## 未来を担う子ども達のために 地域・家庭・学校が一つとなつた取り組み

今年度から始まった「地域子ども教室推進事業」。これは文部科学省が進めている、いわゆる「子どもの居場所づくり」と言われる事業です。

教育委員会では、学校の協力を得て、現在、人間川小学校区と堀兼小学校区をモデル校区として地域子ども教室を行っています。この教室の運営には、地元住民の皆さんが主体的にかかわり、少しずつですが、一歩一歩着実に取り組みを進めています。それはまさに「市民が進めるまちづくり」の一つの姿です。今月は、モデル校区2校でのこれまでの取り組みと今後の展開をお知らせし、地域と子ども達とのかわりを皆さんと一緒に考えます。

### 狭山で始まった 地域子ども教室

この地域子ども教室「事業」を始めるに際して、子ども達が放課後や休日に「どうで?どんなふうに過ごしているのかを知るため、それぞれの校区の児童と保護者にアンケート調査を行いました。そしてこの結果を踏まえ、それぞれの校区で、学校長、PTA会長、子ども会育成会代表、地域

活動団体の代表などの運営委員が話し合い、放課後に実施すると冬期の帰宅に不安があることや協力者の募りやすい日を考慮して基本的に毎週土曜日の9時30分から12時までを活動日としました。現在、両校を拠点に、体験や遊びなど地域性に合った活動プログラムが展開されています。

愛称は「わくわく」と「ほじっく」。取り組みの第一歩として、子ども達が呼びやすく、親しめる愛称を考えました。人間川小学校区では、初回のスタンプリーに愛称を募集するコーナーを設け、寄せられた言葉を

## 活動メニューの一部を紹介！

### ◆わくわく(入間川小学校区)

- 6月26日 スタンプラリー・カヌー体験
- 7月 3日 ミニテニス体験・流しそうめん
- 17日 作って遊ぼう(竹の水鉄砲ほか)
- 24日 サッカー体験・レクリエーション
- 31日 カヌー体験・工作教室
- 8月21日 入間川生態系調査・放送劇
- 9月11・25日 敬老会を彩るディスプレイ作り
- 10月 2日 よさこいソーラン・釣竿作り
- 9~30日 よさこいソーラン
- 11月21日 マス釣り体験
- 27日 敬老会参加者を迎えて・昔遊び

初体験の人が多かった行事。頑張って作った竹の樋や器、箸も大好評でした

最初は生き物に触るのもおそるおそる…でも、最後は川遊びが大好きになりました

「おじいさん・おばあさん、いつまでもお元気で」の気持ちを込めて、地区の敬老会の飾りを作りました



### ◆ほりっこ(堀兼小学校区)

- 6月12日 昔遊び
- 26日 楽しい科学の実験
- 7月 3日 茶の湯体験
- 17日 紙ブーメラン作り
- 8月 5~7日 プール遊び
- 28日 ビオトープ観察
- 9月11日 ペットボトルロケット作り
- 10月 2日 郷土料理(里芋おやき)教室
- 9日 自由遊び
- 23日 十日夜(とおかんや)
- 30日 超大型紙芝居ライブ
- 11月20日 手織り体験教室

子ども達は初めての、大人には懐かしい、ベーゴマやコマ回しに夢中になりました

堀兼地区でたくさん獲れる里芋で「おやき」を作りました。簡単でおいしかった!

台風の日でも集まった子ども達のために実施。予定のメニューではなく、折り紙などで自由に遊びました



## なぜ「地域子ども教室」が必要か 国を挙げて取り組む時代の背景

平成14年4月、完全に学校週5日制が導入され、「子どもを学校から家庭や地域に返そう」という考え方が強くなってきました。「親子のふれあいの時間を増やそう」「地域で世代間交流を進めよう」というねらいで、土曜日を中心に、行政だけでなく民間でもさまざまな事業が行われ、子ども達が参加できるイベントや教室が現在も数多く開催されています。また、学校週5日制が導入される前から活動していたスポーツ少年団や文化クラブなども、土曜日の活動日を増やすなど、子ども達の受け入

れを拡大しています。このように、子どもが遊びに行ける場所はたくさんできていますが、景気低迷などが原因で保護者が土・日曜日でも仕事をしているなど、土曜日も学童保育室に預けざるを得ない家庭が多くあるという現状があります。また、学校が週5日制となったことで平日が忙しくなった分、休日には出かけたがらない子どもも多く見受けられるようになりました。さらに、人と交わるのが苦手な子どもも増えています。社会が抱えるこれら子ども達に関する課題をどのように解決していくかとの視点で、今後この事業を発展させていくことの必要性が叫ばれています。

つなげて、川小あそびひろば「わくわく」と名づけました。今、入間川小学校では子ども達に「わくわく」という名前が浸透してきています。

また、堀兼小学校区では、「クラン」や「教室」とせずに「ほりっこ」と呼びやすくすることで、だれもが自由に参加できる場所にしたという願いを込めました。

### 運営するのは地域の大人達

「わくわく」と「ほりっこ」を運営するのは、地元で活動している個人・団体の皆さんや、市内全域で活動をしている組織に所属する人達です。

例えば、シニア世代の学びの場である狭山シニア・コミュニティ・カレッジ(SSCC)の修学生が所属する「SSCC同窓会活動支援部会」の皆さん。それから、市の文化活動発展に尽力している、狭山市文化団体連合会「所属団体の皆さん。ほかに、民生児童委員、おやじの会、体育指導委員、狭山青年会議所、地域文庫連絡会、各種NPOなど多くの方々がこの「地域子ども教室」の趣旨に賛同し、それぞれができる範囲で、たくさんの協力をしてくれています。もちろん、地域住民の一員であり、子どもにとって一番身近な存在である保護者にも、段々と輪が広がってきています。地域の大人が子ども達とかわり始めてきたのです。